

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 56 号】

月本たくやレポート編集部

〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL: 044-986-6010 FAX: 044-330-1563 Email: mail@tsukimoto.info



防災士を活用した防災・減災対策を！

～地域の防災人材を中心に自助・共助・協働を！～

✓防災士とは？

NPO 法人日本防災士機構によると、防災士とは『自助』『共助』『協働』を原則とし『公助』との連携充実につとめて、社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、さらに、そのために十分な意識・知識・技能を有する者として認められた人』のことで、地域防災力の強化に活用が期待されます。

✓自分の命は自分で守る

自助

災害対策の基本は「自助」で、「自分の命は自分で守る」という観点で、家庭での防災グッズを揃え、耐震対策等の備えが必要です。例えば、阪神・淡路大震災では、犠牲になった人の8割以上が、地震直後に崩れた家屋や倒れた家具等の下敷きになり、短時間で亡くなりました。1981年に始まった新耐震基準を満たしていない建物を始めとした耐震補強や家具転倒防止等、自らできる対策を進めましょう。また、首都直下型地震を始め、想定される大規模災害が発生した場合、該当地域に住む国民・市民は、公務員も含め全員が被災することが想定されますので、まずは自分で備えることが重要になります。



共助

日頃の防災対策でも、高齢者を始め、一人ではできないことがあり、周囲や地域の人々が助け合う「共助」が効果的です。また、発災時には、地域で協力して減災に努めることが重要です。例えば、阪神・淡路大震災で、救出された方々を救出したのは、地域に住む人や消防団員などの地域住民が8割だったと言われています。また、東日本大震災では、釜石市の児童・生徒の日頃からの防災教育・防災訓練の効果で、多くの人々の命を救うことにつながりました。



公助

国や自治体の最大の任務は国民・住民の生命財産を守ることです。そして、発災時には、消防・警察・自衛隊等による救助活動、非難所の開設、救援物資の支給、仮設住宅の建設などを行います。また、公助の防災対策としては、インフラ整備、避難所となる公園等の整備、公共建築物の耐震対策、民間建築物には耐震対策の助成、災害関連情報の周知、災害時要配慮者支援などを進めます。



✓防災士は、行政と市民の連携の中核に

自治体では、市民向けに自助・共助による災害への備えを呼び掛けています。市民一人一人の自助や地域での対策を進める共助については、「呼び掛け」であり、実施するかどうかは、市民の判断になるところです。また、市民一人一人の情報格差や意識格差もあり、きめ細かく防災情報が伝わっていないと考えられます。

そこで、防災士は、自主防災組織や避難所運営会議等のような地域での防災活動の場所で、一定の知識・技能を持つ防災リーダーとしての活躍が期待されます。

全国に20万人以上、川崎市に約1,300人の防災士有資格者がいますが、防災士の活用を進めて行くことが重要です。自治体では様々な活用事例があります。

例えば、日本一防災士有資格者の多い愛媛県松山市では、平時には、市民向けに防災講演や訓練等の啓発活動を進めています。防災訓練・講演の企画立案・実施、地区住民からの防災相談窓口、防災情報の発信などが実施されています。また、松山市には日本防災士機構に認証された351の防災協力事業所があり、防災士の養成や防災訓練の実施等で、市や地域と連携した防災活動を進めています。

✓防災士に期待されること

松山市は、防災士活用に先進的な自治体ですが、川崎市はまだこれからというところです。私も先日防災士養成講座を受講し、合格しましたが、専門的な知識を持つ防災士が連携し、地域で積極的な防災活動を進めて行くことが重要です。

そこで、川崎市も「自分の命は自分で守る」という考えを基本に、自主防災組織等と連携し、防災士の活用を積極的に考えていくべきです。いつどのような災害が起きるか分かりません。例えば、大地震が発生した時でも、平日の昼間に発生する場合と、土日祝日や夜間に発生する場合は大きく異なります。そのような様々な事象に対応していくためにも、地区防災計画づくりが必要です。

地区防災計画を策定するにあたり、防災士の専門的な知識や経験を活用することで、地区住民一人一人・自主防災組織・避難所運営会議・地区関係各団体・自治体との連携のつなぎ役として活躍が期待できます。

防災士資格養成には、研修と資格取得で6万円を超える費用が必要になります。そこで、松山市を始めとした数十の自治体では、助成制度等を設置して、積極的な防災士育成支援を行っています。

今後、川崎市として、防災士の活用を進め、防災・減災対策の自助・共助の強化を進めて行くべきと、議会で提案しています。

学生インターン募集

私も学生時代、横浜市会議員事務所でインターンをしていましたが、大学を超えた当時の仲間と今も続いています。

例えば、こんな方もお気軽にお問い合わせ下さい。

- ・政治家って普段どんなことしてるの？
- ・川崎市の行政の現場を見てみたい。
- ・気になっている社会問題を一緒に勉強したい。
- ・川崎市の施設を見てみたい。など



お問い合わせ・お申込み

住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、SNS 等連絡先、所属校・学部・学年、志望動機(400字程度)を、SNSのDMもしくはEメールでお送り下さい。

Eメールは右のQRコードからお申込みください。



月本たくやプロフィール

昭和53年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書(麻生区・国会担当)等を経て、平成23年より川崎市議会議員。

現在 川崎市議会議員(麻生区選出、無所属、当選3回) 健康福祉委員会委員

神奈川県クッパ協会代表理事 NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長

神奈川大学川崎市宮陵会監事、三田学園同窓会東京支部幹事

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 川崎白百合ライオンズクラブ2017-2018年度会長

五力田町内会地区長 麻生区白鳥在住 家族：妻(会社員) 趣味：KUBB(スウェーデン発祥のスポーツ)



月本たくや事務所

麻生区白鳥2-3-2 Kコーポ白鳥103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

